

現代若者文化と「場所」(2) ネット空間での友だちとのつながり方

立教大学 福重清

1 目的

本研究は、青少年研究会が 2014 年に行った質問紙調査の結果から、今日の若者たちのインターネット空間での友人関係のでき方とその特徴について検討を行うものである。

青少年研究会では、これまで 1992 年、2002 年、2012 年と都市(東京都杉並区、兵庫県神戸市)に居住する若者を対象に質問紙調査を行い、メディア利用や友人関係の現状を明らかにするというものをしてきた(富田・藤村編 1999, 浅野編 2006, 富田・南田・辻編 2007, 藤村・浅野・羽淵編 2016 など)。2014 年に行った調査では、都市に住む若者だけでなく、地方/村落地域に住む若者も対象に調査を行い、都市 - 地方の比較を課題の一つとし、「場所」による違いを検討することにした。

インターネットなどのメディア空間で築かれる人間関係については、これまで、その「匿名性」という性質をめぐって議論がなされることが多かった(例えば、富田 2009 など)。もっとも、匿名的な人間関係ということをもとめては、それ以前に、都市の人間関係の特徴として都市社会学などで議論が重ねられていた。

ネット上の人間関係については、同じ匿名的という特徴から、都市的な人間関係がネット上に拡大していったものというイメージで語られることが多かったように思う。はたしてそうなのだろうか。ネット上で築かれる人間関係(特に若者の友人関係)には、何か特徴的な傾向が見られるのか。この点を、青少年研究会の 2014 年調査データから検討しようというのが、本研究の目的である。

2 方法

本研究では、2014 年に青少年研究会が実施した質問紙調査のデータに基づいて分析を行う。この調査では、SNS サービスとして LINE、Twitter、Facebook の利用に関して質問した。また、ネット上で知り合った相手との友だちづきあいの有無についても質問した。本研究では、このネット上で知り合った相手との友だちづきあいを従属変数として、これとの関連を示す変数を特に検討した。

3 結果

分析の結果、得られた知見は以下の通りである。第一に、SNS 利用の有無では、LINE が約 9 割、Twitter が 5 割、Facebook が 4 割の経験率で、ネットで知り合った相手と友だちづきあいをしている割合は、2 割強であった。第二に、二変数間の関連で見ると、ネットで知り合った相手と友だちづきあいをしているか否かに関しては、年齢や居住地の都市度とは有意な関連がなく、男女での違いは見られた。また、SNS 利用経験との関連では、LINE との関連が見られない一方で、Twitter、Facebook の利用経験とは有意な関連が見られた。この結果から示唆されるのは、少なからず匿名性をはらんだネット上の友人関係に関して、これを形成するのに適した SNS サービスと適さないサービスがありそうだということだ。Twitter や Facebook は前者、LINE は後者に該当しそうである。ではこの違いは、何に起因するのか。本報告では、こうした点についても検討を行う。

文献

浅野智彦編 2006 『検証・若者の変貌——失われた 10 年の後に——』 勁草書房

藤村正之・浅野智彦・羽淵一代編 2016 『現代若者の幸福——不安感社会を生きる』 恒星社厚生閣

富田英典 2009 『インティメイト・ストレンジャー——「匿名性」と「親密性」をめぐる文化社会学的研究——』 関西大学出版部

富田英典・藤村正之編 1999 『みんなぼっちの世界——若者たちの東京・神戸 90's[展開編]——』 恒星社厚生閣

富田英典・南田勝也・辻泉編 2007 『デジタルメディア・トレーニング—情報化時代の社会学的思考法—』 有斐閣